

2012 年度主要国・地域における流通構造調査

==コメ編==

2012 年 12 月

独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産・食品部 農林水産・食品調査課

※本書に記載している内容は、文中に特別な記載のない限り、2012 年 10 月までに実施した現地調査の情報に基づくものです。

【免責事項】ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性に知らされていても同様とします。

目次

はじめに	2
輸出価格の再検討や差別化が必要（香港）	3
日本産米市場は拡大するも競争も激化（シンガポール）	6
高級百貨店・高級スーパーにおける販売が中心（台湾）	10
アンケートのお願い	14

はじめに

日本から農林水産物・食品を輸出するにあたり、流通（物流）や、現地市場での価格競争が課題となるとの声が寄せられています。こうしたなか、主要国・地域における流通（物流）やそのプロセス毎のコスト構造を明らかにするため、主要国・地域における流通構造調査を実施いたしました。

本報告書は、日本の中小企業の皆さま向けに作成しておりますが、農林水産物・食品輸出に取り組む方のみならず、農林水産物・食品産業に関わる皆さまのお役に立てば幸甚です。

2012年12月

日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産・食品部
農林水産・食品調査課

輸出価格の再検討や差別化が必要（香港）

（香港事務所発）

香港ではここ数年、日本産米の輸入量が増加（2011年は前年比46%増の852トン）している一方で、日本の産地間同士での競争も激しく、小売店舗における販売価格もシビアになってきている。今後は、輸出価格の再検討や差別化も必要と思われる。

〈シンプルな流通構造〉

香港におけるコメの流通は、日本の輸出業者→香港の輸入業者→小売店または飲食店と、香港内で卸売業者やブローカーが存在せず、単純な流通構造となっている。コメの輸入ライセンスを保有している輸入業者が、日本の輸出業者との取引量を年単位で取り決めしているケースが多く、契約した産地のコメを年に数回のみ、まとめて輸入している。輸入業者が日本側の輸出業者に発注してから、3～4週間程度で香港の指定倉庫に納品され、1～2日で小売店舗へ配送される。小売店側は、日本で精米してから約1カ月以内に消費者へ売り切ること为目标としている。

〈輸出価格見直し再考も〉

香港の輸入業者は、仕入れ価格〔ヒアリングした輸入業者の場合：1キログラム当たり50～60HKドル（1HKドル＝約10円：2012年9月末時点）〕の約25%を上乗せし小売業者へ出荷している。ただし、日本からの輸送費・通関費（仕入れ値の約10%分）は輸入業者が負担している場合が多い。また、小売業者は20～30%を上乗せし、消費者へ販売している。近年では、長引く円高の影響や同業者間での価格競争の激化により、輸入業者、小売業者はマージン率を下げる傾向にある。香港の輸入業者との安定した取引をするためにも、輸出価格の再検討や差別化を行うことも必要である。

〈玄米流通・現地精米販売業者の出現〉

このような状況の中、新たな流通構造を築く業者が現れた。久保田米業（香港）有限公司である。当社は、日本の農機メーカー株式会社クボタの100%出資子会社であり、2012年に日本農産物の海外販路拡大による農業生産者支援を目的として、香港に日本産米販売のための現地法人を設立。当社の流通構造は、日本の契約米農家（新潟）→クボタ日本国内子会社→指定物流会社（新潟東港～香港）→当社→ネット販売で注文を受けて個別宅配といった流れであり、生産履歴のわかる安心なコメを提供している。玄米の状態での輸入し、自社保冷倉

Copyright © 2012 Japan External Trade Organization, JETRO. All rights reserved.

禁無断転載

庫で保管、顧客からのネット注文を受けてから、香港で保有している自社精米施設にて精米・宅配を実施している。注文から宅配まで要する日数は、最短で3日間であり、精米したてのおいしいコメを売りにして、香港で一般流通している日本産米との差別化を図っており、ネット市場での販売量が増加傾向にある。

(川原 新一郎)

香港

コメの流通経路・時間等（小売店）

表1. 流通（物流）経路、時間、および商慣習

流通（物流）経路	所要時間 (日数)	備考
生産者団体 ↓ 卸売業者		国内流通日数の詳細は把握していない。
卸売業者 ↓ 輸出業者		
輸出業者 ↓ 通関〔輸出港〕	1日	輸出業者（兼卸売業者）が生産者団体から直接取引しているケースもあり。
輸送（海運）	4日	
通関〔輸入港〕 ↓ 輸入業者	1日	・ 輸入業者が日本へ発注してから、約3～4週間で香港着 ・ 年契約で、年に数回のみまとめて輸送するケースが多い。
輸入業者 ↓ 小売業者（日系スーパー）	2日	日本で精米処理した日から1か月以内に売り切ることを目標としている。

（資料）日系小売店および輸入商社へのヒアリングよりジェトロ香港事務所作成

Copyright © 2012 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

香港

コメの流通費用（小売店）

表2. 流通（物流）費用

場面	コスト				商慣習等
	項目	(税)率等	計算内容	輸入価額 =100	
輸出形態 海上コンテナ（混載）					
ロット					
生産者団体 ↓ 卸売業者					国内の流通コストについては把握していない。
卸売業者 ↓ 輸出業者					
輸出業者 ↓ 通関	輸送費等		100×0.1		輸送費、通関手数料込みで仕入れ値の約10%生じる (輸入業者が負担)
通関 ↓ 輸入業者	基本関税	0		100	関税ゼロ
輸入業者 ↓ 小売業者	マージン	25%	100×1.25	125	仕入れ値の25%上乗せして小売店へ出荷（小売店 への香港内物流費込み）
小売業者 ↓ 一般消費者	マージン	20～30%	125×1.2～1.3	150～163	仕入れ値の20～30%を上乗せして消費者へ販売

（注） 表は複数の業者へのヒアリングにより概要をまとめたものであり、全ての業者に当てはまるものではなく、また表で記されている諸費用を全て網羅しているわけではない。

（資料）日系小売店および輸入商社へのヒアリングよりジェトロ香港事務所作成

Copyright © 2012 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

日本産米市場は拡大するも競争も激化（シンガポール）

（シンガポール事務所発）

シンガポールにおける日本産米の流通実態について、日本産米の輸入・小売業者数社にヒアリングを行った。今回のケーススタディーから、間接貿易における小売価格は費用積上方式で設定されていることがわかった。シンガポールには外国産日本米も普及しており、価格が安く、品質も日本産米に近いことから日本産米は厳しい価格競争に晒されている。輸出にあたっては、シンガポールには独特な商習慣が存在することから、事前調査を十分に行い、市場参入を計画すべきである。

〈日本食ブームとともに消費量が増加〉

シンガポールではコメの販売統計が発表されておらず、国内でコメは生産されていないため、輸入量がおおよそその市場規模となる。2011年のコメの総輸入量は36万1,931トン（前年比16.5%増）に対し、再輸出は8万5,956トン（同88.3%増）で純粋輸入量は27万5,975トンだった。総輸入額は3億5,735万Sドル（同5.1%増）で、そのうち日本からの輸入が279万Sドル（同44.5%増）で国別では第7位、日本からの輸入量は602トン（同75.5%増）と震災による原発事故の影響にもかかわらず、日本からの輸入が大幅に増加した（1Sドル=63円：2012年10月1日現在）。

シンガポールで販売されている日本産米の主な小売店は、日系の明治屋や伊勢丹といった高級スーパー、Cold Storage、NTUC Fair Priceといった現地系スーパー、個別配送などがある。日系の高級スーパーでは、北海道、青森、秋田、岩手、徳島、佐賀など全国の産地のコメが並んでいる。現地系スーパー2社は、食品小売市場の8割を独占しているとみられており、日本食コーナーを設置し、日本産米も扱っている。日本産米の小売価格は、銘柄により幅があるものの2キロ：20Sドル前後、5キロ：50～75Sドルで販売されている一方で、米国産日本米は2.5キロ：10～25Sドル、5キロ：15～20Sドルとなっている。米国産2.5キロは高級品種が販売されているが、5キロは安価なコメが扱われているため、全体的に低い価格帯となっている。米国産のほかにもベトナム産（5キロ：20Sドル）なども販売されている。日系スーパーでは店内で精米できる玄米が販売されているほか、玄米でコメを輸入し、シンガポール内の精米工場で精米して個別配送を行う企業も出てきている。

また、近年シンガポールでは日本食が人気を博しており、日本食の飲食店の

Copyright © 2012 Japan External Trade Organization, JETRO. All rights reserved.
禁無断転載

数は約 600 軒、あるいはそれ以上ともいわれている。ジャンルは様々で、ホテルなどに立地する高級和食からチェーン店、とんかつ、焼き肉、牛丼、カレー、お好み焼き、沖縄料理、ラーメンなど専門店も進出している。一方、地元のニーズにアレンジしたメニューを提供する飲食店もある。日本食の飲食店が普及するに伴い、日本米の消費が増えているとともに、これまで外国産日本米を使用していた店でも、他店との差別化を図るために日本産米に切り替える動きも出てきている。

〈小売価格は出荷価格の 2.62 倍〉

輸出業者は、商品が日本国内の指定倉庫へ到着後、輸出通関手続き、リーファーコンテナでの海上輸送を手配。輸入業者はシンガポールの輸入通関手続き、各小売店舗への配送を行う（注）。日本からシンガポールへの海上輸送の所要日数は、18～25 日。流通経路における各所要日数については、表 1 に掲載している。原発事故の影響でコメについては、農食品・獣医庁(AVA)により、輸入通関を一時保留して放射性物質検査が実施される。放射性物質が検出されなければ輸入が認められる。

流通費用のヒアリング結果から、シンガポールでの小売価格は、日本の生産者の出荷額の約 2.62 倍になることがわかった(表 2 参照)。コメは、輸入関税がかからないが、海上輸送費、通関手数料、シンガポールでの国内配送料など、物流コストがかかる。さらに卸売業者、輸出業者、輸入業者、小売業は、その都度利益(マージン)として 25～30%を設定している。現地系スーパーからは、リベート、新商品の登録時の手数料、取引口座開設手数料などを要求されることが一般的である。

コメの輸入に関してはライセンスの取得が必要であり、シンガポール国際企業庁(IE Singapore)が所管している。輸入ライセンスは 2 種類あり、備蓄が必要な Stockpile Licence と備蓄が不要な Non-Stockpile Licence で、輸入するコメの種類によりライセンスが分かれている。Stockpile Licence の中でも品種により要件が異なり、白米は月あたり最低 50 トンのコメを輸入しなければならない。白米の輸入ライセンスを取得した事業者は政府備蓄米として 2 カ月分のコメを政府が指定する倉庫に保管しなければならない。

注：以下、輸入業者や小売業者へのヒアリングに基づく。本ケーススタディーでは、生産者(メーカー)は輸出業者に国内取引で製品を引き渡す間接貿易を想定。

(小林 努)

シンガポール 日本産米の流通経路・時間等

表1. 流通（物流）経路、時間、商慣習

流通（物流）経路	所要時間（日数）	備考
生産者/（卸売業者） ↓ 輸出業者	2日	生産者/卸売業者が指定倉庫への輸送を手配。
輸出業者 ↓ 通関（日本国内主要港）	2日	
海上輸送 （釜山港経由）	12～16日	リーファーコンテナで海上輸送。
通関（シンガポール港） ↓ 輸入業者	1～2日 （放射線検査 ¹ ～2日）	シンガポールの輸入通関は24時間運営されており迅速に処理される。現在、米については放射線検査が義務づけられており、農食品・獣医療(AVA)に検査を依頼する。検査期間は1～2日で、回答があり次第出荷が可能となる。
輸入業者 ↓ 小売業者（スーパー等）	1日	小売業者の注文に基づき、輸入者が小売店舗まで配送。
小売業者（スーパー等） ↓ 一般消費者		日本から小売店舗に並ぶのに18～25日必要。

（資料）各社へのヒアリングよりジェトロシンガポール事務所作成

Copyright © 2012 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

シンガポール 日本産米の流通（物流）費用

表2. 流通（物流）費用

場面	項目	（税）率等	コスト				輸出形態		商慣習等
			計算内容	価格（累計）	出荷額=100	輸入価額=100	ロット	海上輸送、リーファーコンテナ 15トン	
生産者 ↓ （卸売業者）	出荷額			71,800S\$	A	100			輸入業者が生産者/卸売業者に注文。指定日までに卸売業者が指定倉庫へ輸送
（卸売業者） ↓ 輸出業者	マージン、国内輸送費等	30%	AX30%= 21,540S\$	93,340S\$	B	130			
輸出業者 ↓ 通関（日本）	海上輸送費等		3,200S\$	96,540S\$	C	134			
通関〔シンガポール〕 ↓ 輸入業者	輸入額			96,540S\$	D	134	100		
	基本関税	0%	0S\$	-					米のシンガポールの関税は無税
	通関手数料		500S\$	97,040S\$	E	135	101		
輸入業者（卸売業者） ↓ 小売業者 （日系百貨店）	マージン	30%	EX30%= 29,112S\$	126,152S\$	F	176	131		マージンは25～30%設定するが、一般的に委託販売のため、売れ残ったものは返品されその分は輸入業者のロスとなる
	国内輸送費		200S\$	126,352S\$	G	176	131		
	付加価値税	7%	GX7% =8,845S\$	135,197S\$	H	188	140		付加価値税(GST)は7%
小売業者 （日系百貨店） ↓ 一般消費者	マージン	30%	HX30%= 40,559S\$	175,756S\$	I	245	182		マージンは25～35%に設定されているが、特に現地系の小売店ではリベートや新商品の登録時の手数料、取引口座開設手数料等を要求されることが一般的である
	付加価値税	7%	IX7% =12,303S\$	188,059S\$	J	262	195		

（注）1. 通貨換算：1S\$=63円

2. 表は各社へのヒアリングにより概要をまとめたものであり、全ての業者に当てはまるものではなく、また表で記されている諸費用を全て網羅しているわけではない。

（資料）各社へのヒアリングよりジェトロシンガポール事務所作成

Copyright © 2012 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

高級百貨店・高級スーパーにおける販売が中心（台湾）

（交流協会台北事務所）

台湾におけるコメの流通の実態について、2012年9月にコメの輸入業者数社にヒアリングを行った。輸出入手続き・システムや小売先別の販売状況などについてレポートする。

〈輸入米は関税割当品目—輸出入手続き〉

日本から台湾にコメを輸出するにあたっては、(1)植物防疫所が発行した「検疫証明書」の取得、(2)農林水産省の地方農政局、農政事務所に対する「米穀の輸出に関する届出書」の提出、が必要となる。輸出者は日本からの輸出申告時、税関に上記(1)、(2)を提示する必要がある。

また、台湾におけるコメの輸入であるが、コメは2003年から関税割当品目となっている。割当数量は14万4,720トンであり、うち、台湾当局の輸入量が65%（9万4,068トン）、民間輸入量が35%（5万652トン）となっている。この関税割当内の民間輸入米については、オークションによって輸入数量枠の配分が行われる（注）。コメ輸入を希望する業者は、台湾当局に対し、輸入米1キログラムにつき納める権利金額を申請し、高額な業者から順に枠の配分が行われる。関税割当外のコメの輸入は、1キログラム当たり45台湾元（1台湾元=2.65円：12年9月25日時点）の関税が課されるため、台湾にコメを輸入するにあたっては、関税割当の輸入枠の配分を受けた業者経由で輸入を行うのが現実的である。

また、台湾の小売先（高級百貨店等）には、保管倉庫スペースが十分でないところが多いため、台湾内のコメの流通については卸業者等が保管を行い、小売先の注文に応じ、数十キロ単位でその都度納入するのが一般的となっている。

なお、12年9月現在、日本から台湾への食品輸入にあたっては、福島県、茨城県、群馬県、栃木県、千葉県産のすべての食品の輸入が禁止されているため、注意が必要だ。

〈小売先の種類によって異なる日本産米〉

台湾における日本米の小売先は、(1)高級百貨店・高級スーパー、(2)中級スーパー、(3)量販店、(4)高級日本食レストランの4つに大別される。それぞれ以下のような特徴がある。

Copyright © 2012 Japan External Trade Organization, JETRO. All rights reserved.
禁無断転載

(1)高級百貨店・高級スーパー（台北市内では「微風広場」、「太平洋 SOGO」、「新光三越」の食料品売り場、および「city' super」、「JASONS」等が該当）では、日本米が継続的に供給されており、常時置かれている。ハイランクの日本米が置かれており、サイズは2キログラムサイズが中心、価格帯は2キログラムで450～800台湾元だった（12年9月現在）。これらハイエンドの小売先では、年1、2回程度、日本の特定の自治体（北海道、秋田県、山形県、島根県等）が、新米のプロモーション、自県産米販売促進のための催しを行っている。ハイエンドの小売先に置かれている日本米の産地は、北海道、秋田県、山形県、宮城県、新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、京都府、兵庫県、三重県、島根県、徳島県等幅広く、銘柄も合計40種類程度にのぼる。ただし、特定の百貨店にしか置かれていない日本産ブランド米もあり、特定の百貨店における「売り」となっているケースもある。

(2)中級スーパー（台北市内では松青市場、Wellcome等）、(3)量販店（COSTCO等）では、日本産米はスポットで供給されている。何らかの理由で安く販売可能な日本産米が輸入された際、これらの中級スーパーや量販店にスポットで置かれる傾向がある。12年9月現在、台北市内の主立った中級スーパーや量販店では日本産米の販売は確認できなかったが、ここ数年スポットで売られていた際の価格は、2キログラムで300台湾元であった。いずれにせよ、中級スーパーや量販店におけるコメの品揃えは、台湾産米が中心であり、販売サイズも3キログラム以上のものが主流となっている。

(4)高級日本食レストランには、上記(1)、(2)、(3)に置かれていないコメが業務用として独自に流通しているケースがある。例えば、台北市内の高級寿司店は新潟産「こしいぶき」を台湾のインポーターから購入しているが、通常、この品種は上記(1)、(2)、(3)では売られていない。高級日本料理レストラン側のニーズに合わせ、台湾のインポーターが特定の日本産米を別途業務用として輸入しているケースがあることがうかがえる。

〈産地へのイメージが購買活動に直結—台湾人の日本産米購買傾向〉

台湾では、熟年層は硬めの食感のコメを好む傾向があるため、この層向けにはコシヒカリ（日本産米では硬めの食感の品種）の販売が中心となる。

また、日本産米は、品種によってそれぞれ適した料理があるため、コメのパッケージの裏側に適した料理を記載するなどして、生産者側が料理別の使い分

Copyright © 2012 Japan External Trade Organization, JETRO. All rights reserved.

禁無断転載

けを意図しているケースも見受けられる（例：A品種：チャーハン向け、B品種：おかゆ向け等）。

しかし、台湾においては、用途別ではなく、観光地としてのイメージから日本のどの県のコメを購入するかを決める消費者が多く、最近観光で訪問した県や、好きな観光地（県）のコメを購入するケースが多い。そのため、日本産米を定期的に購入している台湾人でも、産地や品種には拘らない人が多く、結果として、高級百貨店など常にコメを販売している小売先では、ある程度の日本産米の品揃えがある方が消費者には喜ばれる。小売店側も日本産米の種類確保には努力している。

注：オークションにおけるコメの輸入数量枠申請に際して、業者は輸入国を指定する必要はない。

（中山 幸英）

台湾

コメの流通経路・時間等

表1. 流通（物流）経路、時間、商慣習

流通（物流）経路	所要時間 （日数）	備考
生産者（メーカー） ↓ 輸出業者	7日	生産者（メーカー）は、台湾向けの輸出注文を受けた後精米するため、出荷までに時間を要する。
輸出業者 ↓ 通関（横浜港）	7日	日本の港での検査は3～4日間必要。倉庫への搬入、申請、その他チェック等含めると合計7日程度必要。
海上輸送	4～7日	海上コンテナ輸送。平日（営業日）のみであれば4日で輸送可。（土日を挟むと7日程度必要。）
通関（基隆港） ↓ 輸入業者	7～10日	台湾側の通関にかかる検査等で時間を要するため、通常10日程度かかる。稀に7日程度で手続き終了するケースも見られる。
輸入業者 ↓ 小売業者（高級百貨店）	1日	小売業者の注文に基づき、倉庫から小売店舗まで配送される。台湾においては、高級百貨店であっても自社倉庫に商品を保管するケースは少なく、店頭に並ぶ分だけ都度注文を行う。（一回あたり、10数kg～数10kg程度）
小売業者（高級百貨店） ↓ 一般消費者		

（資料）各社へのヒアリングより交流協会台北事務所作成

Copyright © 2012 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

台湾

コメの流通費用

表2. 流通（物流）費用

場面	コスト							商慣習等
	項目	（税）率等	計算内容	価格（累計）	出荷額=100	輸入価額=100		
輸出形態 ↓ ロット	海上輸送、コンテナ（混載） 2キロ（1袋）							
生産者（メーカー） ↓ 輸出業者	出荷額+国内輸送費			380NT\$	A	100		
輸出業者 ↓ 通関（横浜港）	海上輸送費等	5% 注1	A × 5% =19NT\$	399NT\$	B	105		
通関（基隆港） ↓ 輸入業者	輸入額			399NT\$		100		
	権利金		13NT\$ × 2kg	425NT\$	C	112	107	台湾において輸入米は関税割当品目の対象。業者が民間輸入米の特を獲得するためには、台湾当局のオークションにおいて権利金の納入が必要（10～15NT\$/kg）。
	通関手数料		30NT\$ × 2kg	485NT\$	D	128	122	30～40NT\$/kg程度。
輸入業者（卸売業者） ↓ 小売業者（高級百貨店）	マージン	13%	D × 13% =63NT\$	548NT\$	E	144	137	
	国内輸送費	注1		-				
小売業者（高級百貨店） ↓ 一般消費者	付加価値税	5%	E × 5% =27NT\$	575NT\$	F	151	144	付加価値税(VAT)は5%。
	マージン	20%	F × 20% =115NT\$	690NT\$	G	182	173	
	付加価値税	5%	G × 5% =34NT\$	724NT\$		191	181	付加価値税(VAT)は5%。

- （注）1. 台北での国内輸送費は、海上輸送費等(5%)に含む。
 2. 通貨換算：1NT\$ = 2.65円（2012年9月25日現在）
 3. 表は各社へのヒアリングにより概要をまとめたものであり、全ての業者に当てはまるものではない。

（資料）各社へのヒアリングより交流協会台北事務所作成。

Copyright © 2012 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

アンケートのお願い

本報告書をご覧いただきありがとうございました。今後の調査テーマ選定などの参考にさせていただきたく、アンケートにご協力いただきますよう、お願い申し上げます。以下の URL 先からご回答ください。

https://www.jetro.go.jp/form5/pub/afc/12_distribution

海外における流通構造==コメ編==

2012 年 12 月作成

作成者 日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産・食品部 農林水産・食品調査課
〒107-6006 東京都赤坂 1-12-32 アーク森ビル 6 階
Tel : 03-3582-5186 FAX : 03-3582-7378
E-mail : AFC@jetro.go.jp
